

展示会「千年の医書」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、6月11日(水)から9月30日(火)までの間、展示会「千年の医書－平安時代から江戸時代までの古医書の世界－」を開催しました。これは同館内にある医学部史料室の所蔵品の中から、古医書の歴史を語る上で極めて重要な史料を展示する企画です。

中国後漢の医聖と尊称される張仲景の『傷寒論』と『金



展示会の様子

匱要略』、元の孫允賢の『医方大成論』は、日本の医学に大きな影響を与えました。現存する日本最古の医書『医心方』は、平安時代の医師、丹波康頼がまとめたもので、平安時代末期以降の『病草紙』は、奇病や身体の異常に関する説話風な詞書に、絵が添えられた絵巻物です。

さらに、陽明学者の中江藤樹が門人のために書いた医学入門書『捷徑医筌』、後世の漢方医学に大きな影響を与えた吉益東洞のベストセラー『類聚方』、日本最初の本格的な西洋医学の翻訳書『解体新書』と、前年に世間の反響を見るために刊行された『解体約図』、日本最初の西洋内科翻訳書『西説内科撰要』、華岡青洲の麻酔薬の研究書『春林軒禁方録抜萃』、日本語で書かれた最初の病理学書である緒方洪庵の『病學通論』など、約30点の展示品は、漢方医学の発展と、その後の蘭方医学との対立と融和、そして蘭方医学の普及という医学の歴史が容易に分かる構成で展示しました。

一部覆刻版も含めて、普段まとめて見ることのない古医書との出会いは、多くの来館者の関心を集め、自分の蔵書との比較を楽しむ古医書収集家もみえました。

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー養成プログラム入講式を開催

●博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー養成プログラム」

博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」は、10月1日(水)、野依記念学术交流館において、第1期生の入講式を開催しました。同プログラムは、大学院国際開発研究科、大学院教育発達科学研究科、大学院生命農学研究科及び大学院医学系研究科の大学院生を対象とし

た5年一貫の学位プログラムです。「食・健康・環境・社会システム・教育」をキーワードとして、ウェルビーイングをアジアで実現するために、専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーの育成を目的としています。

第1部では、プログラム責任者である高橋医学系研究科長のあいさつの後、プログラムコーディネーターである東村博子生命農学研究科教授がプログラムの内容説明を行いました。続いて、第1期生の20名にプログラム証書が授与され、履修生代表2名が抱負や決意を述べた後、濱口総長から履修生に対する激励のことが述べられました。

第2部では、スパ・ペンピッド マヒドン大学アセアン保健開発研究所長による基調講演「女性リーダーを目指すあなたへ」が行われ、リーダーシップとは生まれ持ったものではなく、日々の努力の積み重ねで身につけていくものであるという強いメッセージが送られました。

今回の入講式は、プログラム関係者が一堂に会し、より一層のプログラムの推進を図る上で良い機会となりました。



入講式での記念撮影